



【毎日天のマナを食べさせて下さる神】

出エジプト記16章35節/暗唱聖句:ヨハネの福音書6章31-32節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！改めて新年あけましておめでとうございます！今年もどうぞよろしく願いいたします。お正月休み中はいかががお過ごしでしたか。今日も主の恵みの御座に来られた愛するみなさん一人お一人の上に、みなさんのご家族の上に主の御力を差し伸べ、みなさんを助けて下さいますように！ゆるがないようにみなさんを強く支えて下さいますように！行くべき道に先立って導いて下さいますように切にお祈り申し上げます！生きておられる神の御前でへりくだり、今日もみなさん一人一人に語ってくださる主の御言葉を通して主の御声に心を開き、耳を傾けて従って行くクリスチャンプレイズ全神の家族となりますように切にお祈り申し上げます！アーメン！

以前18世紀、19世紀の聖教徒のクリスチャンたちはヨーロッパで、そしてアメリカという国を建てる間信仰を守るために多くの迫害や苦難を受けなければなりません。今も聖教徒たちが残した有名な言葉があります。“**苦難は変装(へんそう)された神様の祝福だ！**”今日我々にも神様の祝福は目には見えませんが、神は困難のその後の向こう側で祝福をもって我々を待てておられます。環境や状況が問題ではなく、荒野の中にも、荒野を通っている時であっても、自分がどうするかが大切です！自分が心から神を信じ頼り、求める者たちには、必ず神の御助けと祝福が与えられ、注いで下されることを決して忘れないで下さい。苦難の中でも神様の助けと祝福を切に望む人々には、きっと神様は砂漠のような荒野であっても水を飲ませ、必要な者をも満たし、様々な戦いの中での勝利をも与えて下さるお方であることを新年2023年中の歩みの中でもぜひ忘れないようにしましょう。

クリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！なぜ神様がイスラエルの民をエジプトから救い出した後、荒野を通らせたのでしょうか。430年間数世代に渡ってイスラエルの民は、神の民より、エジプトの奴隷として人の奴隷として食べさせられ、その生き方に体が慣れてしまったイスラエルの民たちでした。430年間目に見えるエジプト王が自分たちの神かのように、自分たちに食べるものを与え、守ってくれるエジプトのパラオ王が真の神かのような奴隷生活をしていたイスラエルの民を、エジプトから救い出し、荒野を通らせて、結局、神の民として人ではなく、神によって生かされる、生きる人生であることを経験させ、悟らせ、改めて心から神を信じ、神との関係を保ち、神と交わりながら生きぬくことが出来るようになるためでした。

申命記8章2節では、「**あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試(たべ)し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。**」

人生を荒野のようによく例えられています。荒野はどんなところでしたか。飲む水も、食べる物もなく、一日中耐えられないほどかんかん照(て)りつける太陽の熱気があり、日が沈むと、気温が急に下がる寒さの激しい温度差があるところ、油断してしまうと、毒を持ったサソリや蛇などや荒野の泥棒たちの攻撃がある恐ろしいところ、一言で言うと、人との力だけでは生き残ることが出来ないところ、裏返すと、結局荒野のような人生の歩みは、神によって生きぬくことを出来る場所であったことが分かります。

荒野でその象徴的で、体表的な出来事がマナのことでした！みなさん、人が食べることはどれほど大切なことでしょうか。人間には衣食住が必要だとよく言われても、特にその中でも人が食べられなければ、生きる自体が出来ないため、人の命と直接つながっている一番大切な部分ですよね。例え、いくら高級住宅に住んでいても、いくら社会的に成功した立場を持っていても、食欲がまったくなく、食べられなくなると、人は決して幸せに生きることが出来ないし、生きる自体に支障をきたすことになるでしょう。

飲む水もなく、何も食べる物がなかった荒野の中で、今日の本文出エジプト記16章35節では、何と神ご自身は40年間荒野の中で約200万人以上のイスラエルの民に毎日マナを食べさせて下さったことを証言して下さっています。一緒に読んで見ましょうか。「**イスラエルの子らは、人が住んでいる土地に来るまで、四十年の間マナを食べた。彼らはカナン地の境に来るまでマナを食べた。**」このマナで40年間神ご自身がイスラエルの民を毎日食べさせて下さったことにはとても大切な意味が含まれています。

今日聖書のその内容をしっかり学び、その通り従って守り行うことによって、今年一年中荒野のような人生の歩み中にも神ご自身が今も天からのマナでみなさんを食べさせ、満たして下さる神の恵みの御業を直接体験出来ますようにお祈り致します。

<1. 荒野で食物がなくなった時>

今日の本文となる出エジプト記16章1節を見ると、まず、イスラエルの民は飲める水がなかった荒野の中で水を飲ませて下さる神の御業をエリムというところで体験しました。しかし、エリムで長く留まることはできず、また旅立たなければなりません

でした。それで進んでエリムとシナイ山の間にシンという荒野のところに着くと、ここについて彼らはまた違った苦難に合います。「イスラエル人の全会衆はエリムから旅立ち、エジプトの地を出て、第二の月の十五日に、エリムとシナイとの間にあるシンの荒野に入った。」

2月15日ということはエジプトを出て、約一ヶ月が過ぎたということです。最初イスラエル民たちはエジプトから出た時には当然しばらくの間の食べ物は各自準備したはずですが、しかし、荒野でもう一ヶ月ぐらいいつたら、イスラエルの民が手に持って来た食糧がもうすべてがなくなってしまうました。ひたすら砂漠のような荒野を歩くのに、食料はなくなった時、イスラエルの民たちは不安に陥り始めます。人ってだれでも食物はなくなれば、不安になるのは当然かも知れません。米がなくなったり、よく通っていた職を失ったり、事業が倒産してしまったり、今食べているのが最後である思う時には、いくら神様を信じていても人は不安になるはずでしょう。イスラエル民たちは食糧がなくなった時、不安に陥り、生存の脅威まで感じたかも知れません。

しかし、モーセは荒野で40年間その問題に対してすでに訓練を受けた人物であります！神様はすでに40年間モーセ自分をもどくように食べさせてくださったのか、すでに荒野での生活を通してまず体験させて下さったので、モーセを通して、絶えず今荒野の中にもいるとしても、しばらく食物がなくなっても、主が必ず備え食べさせてくださる事を知っていたはずですが。

しかし、イスラエル民は荒野ではじめての体験だったので、先が見えず、予測(よそく)もつかない、だからもっと恐れて、不安になったかも知れません。‘もしかしたら、私たちはみんなもうここで飢えて全部死にそうではないか。’

それにイスラエル民たちは指導者モーセにつぶやき始めます。しかし、本当は神様に反抗したかったのですが、モーセに反抗したことでしょ。今日の本文2-3節を読んで見ましょう。

「2そのとき、イスラエル人の全会衆は、この荒野でモーセとアロンに向かって不平を言った。3イスラエルの子らは彼らに言った。「エジプトの地で、肉鍋(にくなべ)のそばに座り、パンを満ち足りるまで食べていたときに、われわれは主の手にかかって死んでいたらよかったのだ。事実、あなたがたは、われわれをこの荒野に導き出し、この集団全体を飢え死(じ)にさせようとしている。」

愛する信仰の家族のみなさん！人は苦しくなると、振り向いてすぐ過去のことばかり思い込んで、まるで今より以前過去の方が自分に全然まじったのだとつぶやきやすい傾向があります。(人に対しても、言葉や考えに気をつけましょう。：例え、あんたと結婚しなければ良かった。一人で暮らせば良かったのに。君を産めなければ良かったのに。今は全然幸せじゃない。過去は全然幸せだったのに。。) 実は問題自体よりも、その問題を大げさにしたり、感情的に解釈してしたり、反応してしまうことがもっと問題かも知れません！愛するみなさん、しっかり信仰を立たせ、冷静に見極めると、今の結果が決して全てではない事、いくらでも解決していける余地があるのに、もうすべてに座絶し、もう不可能だと諦めてしまわないように気をつけましょう。

今、イスラエルの民たちに、食物がなくなり、飢えを覚える時は、確かにその人が、いくら信仰が強いと、ちゃんと持っていると言っても弱くなりますよね！ところが、みなさん！何か欠けている時、人生の重要な問題に直面している時こそ、その人の本当の信仰状態が明らかになって来るでしょう。人は試練に合う時、人はようやく神様に向けて握っていた自分の信仰の程度がどれぐらいなのがよく表されるのじゃありませんか。

今イスラエル民たちはお腹がすいている現実の中で、今まで神様が与えて下さった驚くほどの祝福と御業を一瞬すべて忘れてしまいました。葦の海を分かれ、渡らせて下さった奇跡と神の救いを忘れ、乾いた自分たちにすぐ前に起きた苦い水が甘い水に変わり飲ませて下さった神の恵みと御力をも、さらには今までも、これからも導いて下さる父なる神様ご自身が乳と蜜の流れる約束の地に必ず導いて下さるといふ信仰と望みもまったく忘れ、失われています！これがイスラエルの民の信仰の実態であります！実は、我らをも信仰をちゃんと持っていますと言いつつも、問題やトラブルに巻き込まれている時、必要な物がなくなっている時に、すぐ父なる神の存在を忘れてしまうか、恨んでしまう時があるのではありませんか。荒野が苦しくて辛いのはただ苦しいからとか、お金がないから、環境が悪いからではありません。荒野で一番辛いのは、神様への信仰と希望を失われた時ではないでしょうか！

<2. 神様の応答>

不平不満を言い続けるイスラエルの民に対して、神様はどのように応答されたのでしょうか。出エジプト記16章4節を読んで見ましょう。「主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンが降(ふ)らせる。民は外に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。」

神様はその日以来、飢えて求めるイスラエルの民のために、天からマナを降らせ、毎日食べさせて下さいました！

私たちは、神が与えて食べさせて下さったマナを通して、ここで大切ないくつかのことを学べます。

①マナは天(神)からを降る(神様は私たちの体の食物にも関心を持っておられる)

みなさん！多くの人々は、神様が我々の霊的な信仰のみに関心があると思っていませんか。食べることも信仰生活の大切な部分の一つです。

神様は私たちのすべての実際の生活にも関心を持っておられます。そして、我々の具体的な必要さにも与え、満たしてください。親が自分の子供を祝福するように、お母さんがお腹の空いた自分の子どもたちに毎日温かいご飯を作って食べさせるように、神様もご自分の民の信仰のこの言わず、まず、彼らに毎日直接食べ物を与えて、食べさせて下さったのです。主は我々の日用の糧に関しても関心も持っておられます。

創世記28章20節では神様の人であるヤコブが自分の必要を神様が与えて下さったことについてこう告白しています。

「ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、」

ここでヤコブは食べるものと着る物さえも実際神様がすべてをお与えて下さったと証しています。

イエス様は弟子たちに主の祈りを教えながら、「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください。(マタイ6章11節)」、ルカの福音書11章3節には、もっと具体的に「私たちの日ごとの糧を毎日お与え下さい。」(糧:日々一番必要なもの、事)と毎日祈るように教えて下さいました！

このことに関して、イエスキリストはマタイの福音書6章25節—26節まで次のように語られました。

「25だから、わたしはあなたがたに言います。何を食うか何を飲むかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。26空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉(くら)に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、もっと価値があるではありませんか。」

愛するみなさん！食物は人ではなく、神様が与えて下さるものです。人々は“自分が努力して食べている”と考え込んでいるかもしれませんが、実は決してそうではありません！神様は働ける力、健康と食欲、命を与え、全ての状況を守って下さらなければ、我らは食べれないし、働けなくなるのではありませんか。

神様は、地のものではなく、天のマナでイスラエルの民を食べさせました！

イスラエルの民たちが荒野の期間中、労働し、働いて支給自足(しきゅうじそく)させたのではなく、天からマナを降らし、そのマナで荒野での40年間全道を渡り終わるまで、食べれるようにさせたのは、人が食べ生きるのは、神の御手によるのであることをよく教えて下さっています。

愛するみなさん！神様の観点から見て、食物というのは何だと思いませんか。主イエスキリストを信じない人々にとって一般的な食物に対しての観点は「ただ自分が努力して得られ食べる」ということです。「仕事をし、金を稼ぎ、米を買い、ご飯を食べる。もっと良い仕事をもっている人はより良いものを食べ、悪い職の人は粗末(そまつ)なものを食べる」と言います。

しかし、聖書では、全てが神様からのものですが、特に食物と地に関して神様のものだと強調しています。食物の本質は神様からなのです！人が努力して、善を行うことによって救いを得ることができないように、食物もただ人が努力して食べられるものではありません。救いを神様の恵みとして代価なしに与えて下さっているように、食物も神様が天から雨のように与えて、許して下さるのものなのです。

イスラエルの民も天のマナで生かし、生きれるようにさせて下さった神は今も同じではありませんか。

傲慢な人は「自分が努力して食べている」と当たり前と思っています。そのような人は、未来への不安のために毎日食物を蓄(たくわ)えておいても満足できず、もっとほしがろうとします。倉庫の鍵を閉めておいても満足せず、不安の日々が続くでしょう。しかし、神様が与える食物を食べる人は、自足(じそく)する秘訣を知り、今の許されている全てに感謝と平安があります。ロバートバンス(Robert Burn)という先生はこのように祈ったそうです。

“愛する父なる神様！ある人は食べものはありますが、食べれる力がない人がいます。そしてある人は食べれる力がありますが、食べ物がありません。神様！今日も私に食べ物をお与え、食べれる健康と力をもお与えて下さり心から感謝します！”

(神様が全てを守って下さっているの、我らは働けます。そして、与えられているもので食べれます！)

神は「天からマナというパンを降らせ食べさせて下さいました。父なる神様はご自分の愛する子どもたちに一番良い物で、最高のシェフとして満ち足りるように我らを食べさせて下さるお方です。12節を見ると、「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」

詩篇23篇1、5節を見てください。「主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。(1節)」、「私の敵をよそに、あなたは私

の前に食卓を整え、頭に香油を注いでくださいます。私の杯は、あふれています(5節)」

クリスチャンの糧は、このように神様がすべての地にマナを雨のように降り注いでくださる様に、与えられます。

「ですから、何を食べようか、何を飲むか、何を着るかと言って、心配しなくてよいのです。32これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものなのです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父は知っておられます。33まず神の国とその義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます(マタイ6章31-33節)」

ですから、イスラエルの民は、40年間、目の前の地に目を留めるのではなく、毎日天を見上げつつ、神のみを見上げながら、日々与え満たして下さる神の御業を体験し歩んで来ました！今年2023年、荒野のようなこの一年中にも目の前の事ばかり見て、不安に落ちたり、不平を言わず、毎日目を上げて、心を神様に向けさせ、神を見上げて、神様が天から皆さんに具体的に食べさせ、満ち足りるようになる神の恵みの御業を直接体験出来る祝福の一年として迎える私とみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

申命記8章3節を読んで見ましょう。「2あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試(たべ)し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。3それで主はあなたを苦しめ、飢えさせてあなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせて下さった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。」

愛する信仰の家族のみなさん！本当の幸福とは量ではなく、質だと信じます！たくさん持っているから、食べているから、幸福であるとは限りません。狭い家、少ない食べ物の中においても、必要な全てを神は知っておられ、毎日必要なマナが天から降るように、必要な物を、主が与えて下さる事を信じ、実際体験して生きる人こそ、人生の真の自足と感謝を、そして、幸いな人生になれるでしょう。荒野で発見した祝福とは“欲しがる物、必要な者をどれほど手に入れて、たくさん持っているか”ではなく、“だれとともにいるか。”ではないでしょうか。

みなさんは心から、この御言葉を信じますか。それでも、私たちの中の多くはこのことを信じることができずに「それでも、自分が働き、苦勞しなければ」と思います。そうすると、神様はそのような人に「そうしたいなら、あなたはそのまま一生苦勞しつづけなさい」とおっしゃるかも知れません。ぜひ今年中に神様が実際にみなさんに必要さを与え、満たして下さることを実際体験できる今年一年となりますように切にお祈り申し上げます！

そして、神様からの与えられたそのマナには重要な原則がありました！

②神様からの与えられるマナは毎日一日分だけの量(4節)

「主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンが降(ふ)らせる。民は外に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。」

神様はイスラエルの民たちに降らせて下さったマナは、毎日、その日の分を集めるようにさせて下さいました！

二日分でも、一週間分でも、一か月分でも、一年分でもありません！我らの父なる神は毎日暖かい食物を与えたいと願っておられます。腐ったものでもなく、冷めたものでもない、出来立ての温かい日ごとの糧を与えて下さいました。

神様が最も嫌うことは買い溜(だ)めです。なぜなら、心から神様を信頼してないからです。神様は日用の糧を与えてくださると約束されています。神様が与えて下さるマナは毎日、その日の分だけです！神様は二日分を取ったときは、その余りの分すべてが腐らせました！

この世に来られた神の御子イエスキリストも弟子たちにこう祈りなさいと主の祈りを教えながら「今日も日ごとの糧をお与え下さい！」と祈るようにされたのではありませんか。

神様が二日分でも、一週間分でも、一か月分でも、一年分ぐらいまとめて下されば、我らはもっと安心して、もっと余裕を持って気楽に暮らすことが出来るのに、どうして、毎日その日の分だけのマナを与えて下さったのでしょうか。今日の日ごとの糧をお与え下さる様に祈りなさいと命じておられたのでしょうか。神様が人の弱さを縛り、毎日我らを束縛するためだったのでしょうか。とんでもありません。却って、神様が神を信じる民に望んでおられたのは、単なる必要な時に求めれば、食べ物を与える程度の一方通行の関係ではなく、毎日神を信じる民と親しく交わる関係を喜ばれ、望んでおられたからであります！神があなたから遠く離れているのではなく、毎日あなたとともにおられ、あなたを守り、あなたを導いておられることを日々実際に体験させるためであることが分かります！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ある方は、自分は以前こうだった！以前とても恵まれたこと、祝福されたこと、神様と出会ったことを誇りに思って証しする方々がいます。過去の神の恵みを覚えること自体が間違っているわけではないですか、神様が喜ばれるのは、今！今日！神様とどのように交わり、神様との関係を保っているのか！どん

な信仰を持って神を信じ、従っているのかです。

必ず食べる物には、賞味期間があります。賞味期間が大分過ぎて一年前のパンを食べるように家族や子どもに与える方々いるでしょうか。神様は我らに今日一日中生きるために必要なすべてのものを必ず与えて下さいます。

今年一年中には是非、毎日与えて下さる神のマナを頂ける私とみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

③唯一二日分のマナが許される時(六日目-主の日(安息日)を備えるため)

しかし、出エジプト記16章5節には、神様が唯一例外に、二日分を許して下さる時がありました！いつでしょうか。

「六日目に彼らが持ち帰って整えるものは、日ごとに集める分の二倍である。」

5節によると、神様は六日目だけには安息日の備えるために、二日分を取るように命じられました！

それは今日のように、主の日に、神に真心を持って礼拝をささげるのを最優先に備えることが出来るように、食べ物は事前に前日用意するようにさせて下さったのです。それは、主の日には、食べるために何も働かず、神に礼拝を捧げ、神の民とともに交わることを大切に保てるためでした。

ですから、土曜日まで日曜日分まで整え、主日(日曜日)には仕事を止め、すべてが主から与えられることを信じる信仰を持って神に礼拝をささげることを第一に守るように定められた日となるように教えてくださっているのです。

愛する教会の家族のみなさん！神を心から信じる信仰がなければ、主日までお仕事を休むことが不安で出来ません。

すべての必要な物、事は神様から与えられる事を絶対信じ、信頼している人のみが毎週主の日には仕事をも休んで、ちゃんと礼拝を捧げられるのではありませんか。

④天から与えられたマナは一日が始まる前、日が昇る前に取らなければならない

出エジプト記16章7節を見てください。

「朝には主の栄光を見る。主に対するあなたがたの不平(つぶやき)を主が開かれたからだ。私たちが何だというので、私たちに不平を言うのか。」

そして21節を読んでみましょうか。

「彼らは朝ごとに、各自が食べる分量を集め、日が高くなると、それは溶けた。」

そして、13-15節を読んで見ましょう。

「すると、その夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。また、朝になると、宿営の周り一面に露(つゆ)が降(お)りた

14その一面の露が消えると、見よ、荒野の面には薄く細かいもの、地に降りた霜(しも)のような細かいものがあった。

15イスラエルの子らはこれを見て、「これは何だろう」と言い合った。それが何なのかを知らなかったからであった。

モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として下さったパンだ。」

マナは霜のように朝露(あさつゆ)が降りてから与えられた甘いパンでしたが、それはいつも朝ごとに明け方、日が高くなる前のでした。神様が40年間、毎朝ごとにマナを雨のように与えて下さいました。

しかし、マナは日が昇ると溶けてしまい、なくなりました！

イスラエルの民たちは、神様が下さる天からのマナを集め、食べるためには、朝早く起きて、天を見上げる必要があります。

日々すべての日程や仕事が始まる前に、神の供給の御業を経験し、今日一日が神の御手にあることを分からせるためだったのではないのでしょうか。今日も食べ物を与え、必要なすべてを満たして下さるのは、神によるの信じられるための御心であったと信じます！

わたしは、その意味で、**早天に祈るの時は最も大切だと信じております。**一日の全てが始まる前に、神様から与えられる霊的な糧と力を頂き、今日のすべてを神の御手によると信じ、神に委ねて生きる日々は何と守られ、恵まれるでしょう。

例えば、明け方に起きるためには早く前夜自制をして寝なければなりません。人が遅く寝ると、精神病やうつ病にかかりやすくなるらしいです。しかし、私は、今まで早天祈り会に出ている人の中で、そういう病にかかっている人は見たことがありません。神の前で、明け方の時間は祝福の宝庫(ほうこ)です。特別に今年は明け方、この世の始まる時間にまず主と出会い、神様からの霊的な供給(きょうきゅう)をいただく祝福と恵みと日々となりますように切にお祈り申し上げます。そして、日ごとの糧をぜひ日々主に求め、主から与えられるのを体験していくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

<3. 旧約時代のマナの新約の意味(いのちのパンなるイエス・キリスト)>

もう最後に旧約の時代荒野でイスラエルの民に毎日与えて食べさせて下さったマナは何を象徴するのでしょうか。

ヨハネの福音書6章31-33節です。「**私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『神は彼らに、食べ物として天からのパンを与えられた』と書いてあるとおりです。』32それで、イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。モーセがあなたがたに天からのパンを与えたわけではありません。わたしの父が、あなたがたに天からまことのパンを与えて下さるのです。33神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものなのです。」**

ヨハネの福音書6章35節を見てみましょう。

「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

ヨハネの福音書6章48—50節

「わたしはいのちのパンです。49あなたがたの先祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。50しかし、これは天から下さって来たパンで、それを食べると死ぬことはありません。」

旧約時代にはモーセを通してマナを与えて下さいましたが、マナはすなわち、来られた救い主イエス・キリストを象徴していたことがわかります。**荒野のような人生を歩んでいる世のすべての人々に天から来られた主イエス・キリストはすべて人生の上乾きを持っている者、疲れた者、傷ついた者、罪人たちにいのちのパンとなられ、彼らの空しい人生を満たし、神の御救い、永遠の命を食べさせて下さると約束されました！**

そのイエスキリストが今荒野の食卓にみなさんを招待されながら、このように言うておられます。

“私の肉を食べなさい。私の血を飲みなさい。これは永遠の渴くことのないいのちのパンであり、この血は永遠に渴くことのないいのちの水である。これを食べて信仰によって世の中で勝利して行きなさい。”

イエスキリストは今日も、今も我らにこう語って下さっておられます。

ヨハネの黙示録3章20節「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸(心)を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

人に神の救いを、永遠のいのちを与える天のマナとなられるイエスキリストと実際、毎日出会うことなく、交わることなく生きるクリスチャンはとてもかわいそうです。教会で信仰生活を送りながら、人々との出会い、交わりばかりして、イエスキリストを頂けない、交われないほど悲しく、残念なことがあるでしょうか。聖書がつまらないと言う方は聖書を通してイエスキリストと出会っていないからです。祈りが続けられ方は、祈りを持ってイエスキリストと交われない方続くことが儀式見たいにつまらなくて、難しいのです。礼拝の時にいつも眠くなるばかりだと礼拝を通して臨在されるイエスキリストの恵みを体験してないからではないでしょうか。

是非新年には、毎日我らの永遠のいのちのマナであられるイエスキリストと霊的な糧となる神の御言葉と祈りを持って交わって歩めますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！

<注意点！感謝を忘れず天のマナを頂く奇跡の恵みの毎日となりますように！>

毎日感謝を忘れず天のマナを頂けますようにお祈り申し上げます！

最後のみなさん！イスラエルの民が奇跡的に神から天のマナを毎日頂きながら感謝し続けたでしょうか、それとも飽きたと思いますか。**民数記21章5節**を見ると、食べ続けたイスラエルの民の反応がこう書かれています。

「神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。我々はこのみじめな食べ物に飽き飽きしている。」

人間の弱さはよく現れています！人は、慣れてしまうとその感謝を失ってしまい、当然当たり前かのように思い込みながらつぶやきやすい存在であるということではないでしょうか。

神様から我らにすでに与えられた恵み、今まで、特別に今日まで与えられ、守られ、導かれた神の恵みと愛を、いつの間にか、イスラエルの民たちのように、今はみじめな、飽きた物みたいに扱って来ているところはありませんか。

昨年辛い時、嫌な時を今年も繰り返そうとしたりたくないなら、今日も与えられる神の天のマナを大切に、感謝を持って受け取りましょう。今日の御言葉を飽き飽きしている物のように扱わず、感謝を持って受け止め、この御言葉の約束を信じて従って見ませんか。毎日、神様から与えられる恵みの生けるマナを信じて、期待し、感謝を持って祈り、行う日々となりますようにお祈り申し上げます！！

始まった2023年に、毎朝神から降りる天のマナを頂ける我らとなりますように！昨日の恵み、先週、先月、昨年、過去のマナで止まっているのではなく、毎日新しく天の最高のシェフなる神様が我らのために、最高に備え与えて下さる恵みのマナを頂けますように！今年一年の勝負、毎日の勝負がこの神様と明け方、朝の時間にもう決まることを信じ、毎朝神様に向ける時が格別に祝われますように祈ります。毎日、その日の分、生活するために、働くために、生きるために必要なことを私に求めなさいと言われた主の祈りを覚え、キリストイエスを信じ、今も生きておられ、ともにおられる神様が求めるみなさんの毎日の祈りに具体的に答え、供給して下さる素晴らしい恵みの日々を迎えられますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！

<今週の祈り>

天の父なる神様。今日も我々にいのちのパンを与えてくださり感謝します。このパンを食べる私たちに再び渴くことのない永遠のいのちを、祝福を愛するすべての人々にお与えてください。必要な糧を今日も与えてくださり、毎日朝方に与えられる生ける神の恵みと力を頂けるように、助け導いて下さい。主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！